

009

From Editor

011

表紙の時計 / ローラン・フェリエ、ガレ・アニエアルカレンダー・スクールピース

012

Editor's Choice!

グラスヒütte・オリジナルセネタ・エクセレンスパノラマデイト・ムーンフェイス

オメガスピードマスター・ダークサイド・オブ・ザ・ムーン・アポロ8号

スピーク・マリリン・ワン&ツワ・オープンワーク・デュアルタイム / チャベック・フオーブル・ド・クラコヴィ

ゼニス・デファイ・クラシック・レンジ・ローバー・スペシャル・エディション / ブルガリ・ルチエ・スケルトン・桜 日本限定モデル

018

世界は時計で回っている。

020

ヴァン・クリーフ&アーペル・ポエティック・アストロノミー

技巧を凝らして天空を表現した美しい時計たち

024

ブレゲ・マリリン・クロノグラフ5277

海との関わりが強調された新型マリリン・クロノグラフ

026

レゼルボワールの新作モデルたち / ロングブリッジ、GTツアー、スーパーチャージド、エアファイト、ティーフエンメッサー

アンティーク・メーターの魅力を手時計で表現

028

パリス・ダコタ・ハヤシマ・紺碧

国籍を超えた3人の時計仲間が生み出した日本発信のブランド

030

ユリス・ナルダン・エグゼクティブ・トゥールビヨン・スケルトン・フリーホイール

デザインの變貌で斬新さを打ち出した新作

031

2019年ブランド別新作情報(ジュネーブ編)

あるべき姿に立ち返り、継続的發展を目指す

例年よりも1日短く、1月14日から17日までの4日間にわたってジュネーブのパレクスポで開催されたSIHHは29回目を迎えました。同時期にフランク・ミュラーのウォッチランドではWPHHが開かれ、ジュネーブ市内のホテルではLVMHグループの時計ブランドがそれぞれ新作をお披露目しました。大きな話題作は乏しかったものの、継続的發展を目指した手堅い新作が目立つ年でした。ブランド別に主要な新作を紹介し、今年の傾向を探ります。

076	フォルティス・フリーガープロJP <sup>®</sup> & ブラックアウト <sup>®</sup>
	<b>アビアティス・コレクシオンにお目見えした日本スペシャル</b>
078	グッチのニューモデル <sup>®</sup> グッチ・ダイヴ <sup>®</sup> と <sup>®</sup> Gタイムレス・オートマティック <sup>®</sup>
	<b>自由で楽しい発想から生まれたユニークな時計たち</b>
080	エポスのフルカレンダー・ムーンフェイズ・モデル <sup>®</sup> 3391ナイトスカイ <sup>®</sup> と <sup>®</sup> 440ビッグムーン <sup>®</sup>
	<b>夜空を思わせる文字盤の上で満ちては欠ける月の魅力</b>
082	<b>セイコー 秀逸なデザインと使い勝手の良さが融合した個性派が復刻</b>
086	ヴァシユロン・コンスタンタン「レ・キャビノティエ」コレクシオン <sup>®</sup> メカニック・ソヴァーージュ <sup>®</sup>
	<b>伝統的な手工芸を生かし野生動物に捧げるユニークピース</b>
087	シヨハール <sup>®</sup> UCXP漆イヤー・オブ・ザ・ビッグ <sup>®</sup> & ハリー・ウィンストン
088	ユリス・ナルダン <sup>®</sup> ダイバークロノメーター <sup>®</sup>
	<b>心温かく寛容な干支を表現したふたつの新作</b>
089	ブライトリング「カプセルコレクシオン」 ◆ナビタイムマー1 エアラインエディション <sup>®</sup>
090	RJ <sup>®</sup> アロー コラボレーション <sup>®</sup>
	<b>商業航空の黄金期に思いを馳せて</b>
091	ルイ・ヴィトン <sup>®</sup> タンブルホライズン <sup>®</sup> コレクシオン第2弾
	<b>旅のための利便性をさらに追求し、進化した第2世代</b>
092	カシオ <sup>®</sup> グラビティマスター GWR-B1000 <sup>®</sup>
	<b>Gショック初のカーボン・ケースを採用したパイロット・ウォッチ</b>
093	セイコーアストロン5Xシリーズ デュアルタイム
	<b>大谷翔平選手とのコラボレーション限定モデル</b>
094	新製品情報
100	モンブラン銀座本店リニューアルオープン
101	セイコードリームスクエア・オープン
102	ブルガリザ・リッツカールトン東京店 <sup>®</sup> オープン <sup>®</sup> ／ブルガリアウローラアワード2018 <sup>®</sup>
103	IWCがグローバルパートナーを務めるローレウス
104	オメガ <sup>®</sup> デ・ウィルトレゾア125周年記念モデル <sup>®</sup> & 19ライン <sup>®</sup> オメガ <sup>®</sup> キャリバー
105	フェノメン日本上陸 <sup>®</sup> ／2018インポート・ウォッチ・オブ・ザ・イヤー
106	112 インフォメーション／問い合わせリスト／次号予告

ヴァン・クリーフ&アーペル ヴォデアック・リュミヌール

# 技巧を凝らして天空を表現した美しい時計たち

ヴァン・クリーフ&アーペルは、ポエティック・コンプリケーションと名づけた、他と一線を画した複雑時計を発表してきた。ここではそのなかで天体や星座をテーマとしたポエティック・アストロノミーのニュー・カマーたちをみてみたい。



プラネタリウムは、大きなダイヤモンドの三日月とターコイズの地球が組み込まれたオートマティック・ローターを装備する。ケース側面やクラウンにもダイヤモンドが嵌め込まれる。周囲の窓は右上が西暦、下が月日。

時刻はスマート・フォンで見るから腕時計はしない。そう言ってはばからない人が増えているようだ。確かにそうかも知れない……しかし、彼らに向かって、ひとつだけ言いたいことがある。それは、時刻を読み取るのだけが腕時計の役割ではないということだ。そう、リストウォ

ッチは、着ける楽しみを兼ね添えた時計なのである。だからこそ、貴金属を使うケースや、エナメルやマザー・オブ・パールの文字盤、そして緻密で手の込んだ機械式ムーブメントなど、一般人から趣味人にとっても興味をそそられる数多くの「要素」がいたるところに組

み込まれているのだ。もちろん、これは腕時計だけの話ではなく、先代の懐中時計時代にはじまった携帯時計が持つ、大きな魅力といえる。

中でも天体の動きを小さなりストウォッチの文字盤上に載せたヴァン・クリーフ&アーペル・ポエティック・アストロミーは、飛びぬけて秀逸なコレクションだと思う。月や星、惑星の動きなどを文字どおりヴァン・クリーフ&アーペルの解釈をもって「空想的」に表現しているからだ。ここに紹介するのは昨年発表され、わが国に上陸したばかりのニュー・カマーたちである。

## レディ・アーペル・プラネタリウム

2014年に登場した「ミッドナイト・プラネタリウム」は、太陽を中心にして、その周りを周回する惑星の動きを文字盤に再現した超複雑な天文時計であった。それぞれの周期でダイアル上を1周する各惑星には寶石がセットされており、ベ

ゼルにはエッジが刻まれていたが、このモデルを進化させたのが、新作の「プラネタリウム」である。

前作同様、独立時計師のクリスティアン・ヴァン・ダー・クラウトの共同で製作された。これまで通りアベンチュリン・ダイアルの周囲をまわるほうき星(彗星)で時刻を表示し、太陽の周りを惑星が周回するものの、その惑星の数は従来の6つから3つに変更されるとともに、新たに地球の惑星である月が加わった。もちろん惑星たちは、水星88日、金星224日、地球365日11年、月29・5日という実際の速度でダイアル上をひとまわりし、ピンクゴールド製の太陽をはじめ、それぞれの惑星にはピンク・マザー・オブ・パール、グリーン・エナメル、ターコイズ、ダイヤモンドが嵌め込まれる。いっぽう、シースルー・バック越しに見えるムーブメントの表側もゴージャスな出来栄だ。中央部にセットされたオートマティック・ローターはターコイズ

# レゼルボワールの新作モデルたち ロングブリッジ、GTツアー、スーパーチャージド、エアファイト、ティーフエンメツサー、 アンテイク・メーターの魅力を手時計で表現

フランソワ・モロー氏はかつてのクルマや戦闘機、潜水艦などに装備されたメーターに魅せられ、多くを収集する。その彼が辿り着いたのが、計器のひとつである時計を作ることだった。そしてレゼルボワールを創業。メーターに着想を得たコレクションを見てみよう。



初代のミニ850のダッシュ中央部に置かれていたスピード・メーターをイメージしたロングブリッジ。グリーン・ダイアルの中央がレトログレード式の分針、6時の窓がジャンピング・アワーで、その下が燃料計を模したパワーリザーブ・インジケーター。ちなみに実車では、時刻の左右がイグニッション(赤)とハイ・ビーム(青)の警告ランプとなる。インジケーターの数字はマイル表示。価格は53万4600円。

それまでのポケット・ウォッチに代わり、1930年代に携帯時計の主役の座に着いたのがリスト・ウォッチであり、先代から受け継いだそのケースは、角形や樽型に比べると丸型が圧倒的多数を占め

る。もちろん、これは12時間単位で時を刻んでゆく時計の回転式表示と、この丸い形の組み合わせが理に叶っているからである。いつぼう、丸型のケースが多用される

機器には圧力、温度、バキューム、油圧、スピードなどの各種メーターがあるが、同様の理由から丸い形状が絶対的多数である。しかし、世の中にはこうしたメーターに魅せられた輩が少なからず存在するから面白い。たとえば、そのアイコンをリスト・ウォッチに注ぎ込んでしまったのがイタリアの時計メーカー、ジュリアノ・マツォーリだが、新たに輸入が開始されたレゼルボワールもそのひとつに数えることができる。

同社は2016年7月にパリで操業を開始したばかりの新しい時計メーカーである。これを率いるフランソワ・モローCEOは古いクルマや航空機などに搭載されるメーターに魅せられたひとりであり、それが高じてヒストリックカーや航空機イベントとパートナーシップを組むほどの御仁だ。いささか余談だが、好きな旧いクルマは？との質問には、手に入

された「スプリット・ウィンドウ」のコレット・ステイングレーや「ビッグ・ヒール」(「オースチン・ヒール」)と、まさに期待したとおりの答えが返ってきた。さて、本題に移ろう。合わせて5つからなるそのコレクションは……

① ロングブリッジ 1959年にデビューした初代BMCミニ850が生産された英国パーミンガムのロングブリッジ工場から名付けられたモデル。文字盤は、そのオースチン・セブン/モリス・ミニ・マイナーが装備していた極めてシンプルなスピード・メーターを模している。

② GTツアー 1960年から1990年にかけて製造されたGTカーのレブ・カウンター(回転計)をイメージした文字盤が特徴。6000rpmまで示されたメーターは、5000rpmから許容回転域を超えた「レッド・ゾーン」が示される。

③ スーパーチャージド エンジンのパワー

# A.LANGE & SÖHNE

Aランゲ&ゾーネ

©A.ランゲ&ゾーネ ☎03-4461-8080

## “ランゲ1”と“ツァイトヴェルク”、ふたつの周年を記念

ベルリンの壁崩壊から今年は30年目を迎えた。これをきっかけにA.ランゲ&ゾーネが復興を果たし、故ギュンター・ブリュームライン氏の指揮の下に開発された最初の時計が発表されたのは1994年のこと。それから25年目となった今年のテーマのひとつが「ランゲ1 25周年」であり、1月のSIHHに始まり10月までの間、毎月、記念モデルが発表される。2月26日には第2弾の「グランド・ランゲ1・ムーンフェイズ “25th アニバーサリー”」も登場した。さてデジタル表示の「ツァイトヴェルク」は10周年を迎え、日付け表示が設けられた。



### ランゲマティック・パーベチュアル・ハニーゴールド

2001年に誕生した“ランゲマティック・パーベチュアル”のケースに初めてハニーゴールドが採用された。ハニーゴールドは2010年に登場し、A.ランゲ&ゾーネが専用使用権を所有する。配合する金属と熱処理によって通常のゴールドよりも高い硬度をもつという。この新作ではローマ数字のインデックスとストラップのバックルにもハニーゴールドが用いられた。直径38.5mm×厚さ10.2mmのケースに永久カレンダー機構を備える自動巻きのCal.L922.1(43石、毎時2万1600振動、パワーリザーブ約46時間)を搭載する。シースルー・ケースバック。予価1007万6400円。5月以降の発売予定。限定100個。



### リヒャルト・ランゲ・ジャンピングセコンド

2016年にPt950のケースにホワイト文字盤を組み合わせて発表された“リヒャルト・ランゲ・ジャンピングセコンド”が18KWGケースとブラック文字盤で再登場した。A.ランゲ&ゾーネ初のコンスタント・フォース・エスケープメント機構(ジャンピング・セコンド)とゼロリセット機構を装備した手巻きのCal.L094.1(50石、毎時2万1600振動、パワーリザーブ約42時間)を搭載。レギュレーター文字盤の12時位置で秒、下の左側で時、右側で分を表示し、その間の小さな窓にはパワーリザーブが10時間を切ると赤の指標が現われる。ケースは直径39.9mm×厚さ10.6mm。シースルー・バック。予価842万4000円。4月以降の発売予定。



### ダトグラフ・パーベチュアル・トゥールビヨン

2010年にプラチナ950のケースでお目見えした超複雑時計の“ダトグラフ・パーベチュアル・トゥールビヨン”に18Kホワイトゴールド・ケースとピンクゴールドの文字盤を組み合わせた第2弾が登場した。手巻きのCal.L952.2(59石、毎時1万8000振動、パワーリザーブ約50時間)を搭載する。プレジジョン・ジャンピング・ミニッツカウンター搭載のフライバック・クロノグラフ、瞬転式の永久カレンダー、122.6年間に約1日の誤差のムーンフェイズ、そしてケースバック側にはストップセコンド機構搭載のトゥールビヨンを装備する。ケースは直径41.5mm×厚さ14.6mmで、シースルー・バック仕様。予価3249万7200円。6月以降の発売予定。限定100個。



### ツァイトヴェルク・デイト

ツァイトヴェルクの10周年を記念して日付表示を設けた手巻きのCal.L043.8(70石、毎時1万8000振動、パワーリザーブ約72時間)が開発された。上下に重なる二重香箱を装備しパワーリザーブは従来の2倍に延長された。文字盤外周のガラス製日付リングの下にもう1枚のリングがあり、その小さな赤のセグメントが深夜0時に1日移動して日付を示す。8時と4時位置には日付と時表示のプッシュボタンが設けられた。18KWGケースは既存よりも大きい直径44.2mm×厚さ12.3mm。予価1065万9600円。7月以降の発売予定。



### ランゲ1 “25th アニバーサリー”

1994年にA.ランゲ&ゾーネの復興第一号コレクションのひとつとして発表された“ランゲ1”の25周年記念限定モデル。直径38.5mm×厚さ10.7mmの18KWGケースには開閉式裏蓋が付き、1873年竣工のランゲ時計工房とウォルター・ランゲとギュンター・ブリュームラインの名、「25 JAHRE LANGE 1」の文字が刻まれる。また針と日付表示、インデックスはブルーに統一された。ムーブメントは2015年から採用される手巻きのCal.L121.1(43石、毎時2万1600振動、パワーリザーブ約72時間)を搭載し、アウトサイズデイト表示が瞬転式になり、自社製フリースプランク式ヒゲゼンマイを装備する点が1994年のオリジナルと異なる。テンプ受けにはアウトサイズデイト表示の25日を手彫りで施し、彫り線を着色してブルーに仕上げた。予価528万1200円。4月以降発売予定。限定250個。



フォルテイス フリーガープロジェクト、ブラックアウト2

# アビアテイス・コレクションにお目見えした日本ス・ペシヤル

パイロットやダイバー、そして宇宙飛行士に向けた腕時計で知られるフォルテイスは堅実なスイス・ウォッチ・メーカーのひとつ。ここでは日本市場のために製作されたふたつの新作ウォッチを見てみたい。ともにフォルテイスらしさを感じさせるモデルである。



デイト窓を取り去り、すっきりとしたダイヤルが特徴のフリーガープロジェクト。日本限定モデルで、ねじ込み式の41mmケースには、ETA2836-2オートマティックを搭載。カーフ・ストラップつきの価格は10万5840円。

フォルテイスは堅実なスイス・ウォッチであり、主にスポーツ・モデルの世界でパイロット・ウォッチやコスモノート・ウォッチ、さらにダイバーズ・ウォッチなどの生産を続けているのはよく知られるとおりである。ここでは、航空機を題材に取ったフォルテイスがもつとも得意

とするアビアテイス・コレクションの新作モデルを2機種紹介しようと思う。**フリーガープロジェクト** 1987年の創立75周年を記念して製作されたフリーガー・クラシックの後を継ぎ、2016年から生産が続けられているのが、中3針式ベイスティック・モデル

のフリーガープロである。その特徴は抜群に視認性の良いことで、10気圧の防水機能とシースルーバックを備えた直径41mmのケースには、自動巻きでデイトつきのETA2836（25石、2万8800振動、パワーリザーブ約38時間）を搭載する。

今回製作された「JP」はジャパン仕様、つまり「プロ」のダイヤルまわりに手を加えた日本仕様モデルである。デイトを取り去るとともに、その意匠は先代のフリーガー・クラシックのイメージを採り入れたもので、時刻表示関係では大きなソールド・ハンドを装着するとともに、バー・インデックスが採用された。シリーズ中で最も小振りなそのケース・サイズも、わが国では歓迎されそうだ。

**ブラックアウト2** 2006年にデビューしたオール・ブラックのモデル、ブラックアウトは、初の日本限定モデルあり、その特異性ゆえ

に一部の時計フリークに好評を得たが、その第2弾となるのがこのブラックアウト2である。ブラックアウト（一時的な意識や記憶の喪失の意）の名称は、宇宙から地球に帰還する有人飛行船が大気圏に突入する際に、地上基地との通信が一時的不通となることから採用されたもので、いかにもフォルテイスらしいネーミングと言えるだろう。

10気圧防水とシースルーバックを採用した直径41mmのフリーガー・ケースにはブラックPVD加工が施されており、新たに採用されたデイ・デイト機構やアラビック・インデックスなどを搭載したダイヤルはブラック・マット仕上げがなされる。ただし時分秒の各針と、フリーガー・ウォッチであることを示す12時の三角指標に、最小限の視認性を確保するためにホワイトのスーパーミノバがベイトントされるが、これが絶妙なアクセントとなっている。

グッチ グッチ・ダイヴとグ G・タイムレス・オートマティック

# 自由に楽しい発想から生まれたユニークな時計たち

今日、ファッションの世界で注目を集めるグッチのクリエイティブ・ディレクターのアレッサンドロ・ミケレ。彼が手がける時計には専門メーカーでは生まれ得ない面白さがある。ダイバーズ・ウォッチの文字盤にタイガーを描いてしまう、こんな発想が実に楽しい。



スモール・セコンド仕様のオートマティック・ムーブメントを搭載したG・タイムレス・オートマティック。12時のアイコンを中心に、ギョーシェ文字盤のインデックスには星や蜂がランダムに楽しく並ぶ。価格は24万7320円。

ドが造るべき腕時計がどうであるべきかを知り抜いたデザイナーが手がけた作品とも言えるだろう。周知のようにグッチは、ジラール・ペルゴやユリス・ナルダンといった時計専門メーカーと同じケリング・グループの一員だ。しかし、こうしたガチガチの「専門家」たちに頼ることなく、もっともっと自由な発想で時計づくりを行っているから、ユニークでしかも面白いモデルが次々に登場するのだと思う。

## G・タイムレス・オートマティック

スモール・セコンド付きのクラシカルなモデルが昨年に生産が開始されたタイムレス・コレクションである。ローレット模様を刻んだベゼルや、同じくギョーシェ模様をつけたダイヤルなどが密かに存在をアピールするが、極めつけは12時にセットされたタイガー・ヘッドをはじめ、インデックスには2種類の星や蜂などがちりばめられることだ。

搭載ムーブメントはETA 2895オートマティックで、27石、2万8800振動、約42時間のパワーリザーブを備える。

今、グッチのリストウォッチからは、これまでにはない勢いが感じられるものも。ばらの評判だが、むしろこれには理由がある。それは、1にも2にも2015年

にクリエイティブ・ディレクターに就任したアレッサンドロ・ミケレの世界観がグッチにマッチしており、彼自身の感性が優れているからにはほかならない。だ

から季節ごとに登場する新作モデルを目にする、それだけでどこか楽しくなってしまうのだ。同時に、それはファッション・ブラン

## 【次号予告】

# 2019年 ブランド別 新作情報

## 【バーゼルワールド編】

3月21日から26日まで開催されるバーゼルワールド2019。スウォッチグループをはじめ複数のブランドが出版を取りやめるため、会場の様子も大きく変わることが予想されます。

そうしたなかでパテックフィリップやロレックス、シヨパール、ブライトリング、シャネル、そしてLVHMグループに属する時計ブランドなどの主要各社や、独立時計師系の小規模ブランドはどのような新作で話題を作ってくれるのでしょうか。ブランド別に新作をご紹介します。

## 【スウォッチグループ編】

スウォッチグループのブレゲ、ブランパン、ハリー・ウィンストン、ジャケ・ドロ、グラスヒütte・オリジナル、オメガは5月にメデアに向けて新作のお披露目を行います。またその他は日本国内でそれぞれ新作を発表します。これらの発表会をレポートします。

## 【話題の新作をレポート】

2018年から2019年にかけて日本国内で発売された興味深い新作を掘り下げます。

「世界の腕時計」第140号は2019年6月8日発売予定です。

## 世界の腕時計 定期購読のご案内

### 毎号、送料無料でお届けします!

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方  
便利な定期購読を是非ご利用ください。  
特別定価アップ分、および送料はサービスいたします。

#### 【年間購読料】

1年間(年4冊) **6,584円(税込)**  
(3月、6月、9月、12月・8日発売予定)



#### 【お申し込み方法】

フリーダイヤル 富士山 富士山

●お電話で(年中無休24時間受付) **0120-223-223**

●インターネットから <http://fujisan.co.jp/sekainoudedokei>

●携帯電話から <http://223223.jp/m/sekainoudedokei>

●QRコードから 上記QRコードからアクセスして下さい。

#### 【お問い合わせ】

富士山マガジンスerviceカスタマーセンター  
パソコンサイト:<http://fujisan.co.jp/cs>  
メールの場合:[cs@fujisan.co.jp](mailto:cs@fujisan.co.jp)  
に、お問い合わせください。

#### ■注意事項

- 定期購読の契約は、富士山マガジンスerviceとの契約となります。
- お支払いのタイミングによっては、ご希望の開始号が後ろにずれる場合がございます。
- 地域によっては、発売日より商品到着が若干遅れる場合がありますので予めご了承ください。
- 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承ください。

編集の都合上、内容が一部変更となる場合もありますので、ご了承ください。

ワールドフォトプレス ホームページ <http://www.monomagazine.com>

WORLD M O O K

ワールド・ムック1193

# 世界の腕時計

No.139

平成31年4月15日発行

発行人……………今井今朝春

編集人……………香山知子

発行所……………株式会社ワールドフォトプレス

〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2

編集部……………☎03-5385-5667 FAX.03-5385-5617

広告営業部…☎03-5385-1350 FAX.03-5385-1348

販売部……………☎03-5385-5701 FAX.03-5385-5703

印刷所……………大日本印刷株式会社

- 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら  
小社・販売部宛てにお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。
- 本誌掲載記事の無断転載・複製・転写を禁じます。